

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000056		
法人名	柘野福祉会		
事業所名	グループホーム上桂(桜ユニット)		
所在地	京都市西京区上桂北村町114番地		
自己評価作成日	令和4年3月20日	評価結果市町村受理日	令和4年6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2694000056-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の流行の中、なかなかご家族に会うことが出来ず、外出の機会も失われているが、出来るだけ寂しくないよう家庭的な雰囲気と時間を見つけ、個々との時間を大切に過ごすよう心掛けている。また、食事に関しては出来るだけ手作りを意識しながら、入居者様の意向を確認しながら、献立を立案している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム上桂の利用者は、入居の時から地域と繋がりがながら生活出来ることを望まれている方が多く、御霊神社のお祭りや地域の小学校と交流、区民運動会に参加、そして地域へ買い物に行っていました。小休止で今は、感染対策や時間帯を考えて、下肢筋力の保持や気分転換に職員とマンツーマンで散歩を楽しんでいます。入居に際し家族と利用者に基本情報を書いて貰い、家族と一緒に介護計画を作成していますが、毎月の家族へのお便りに生活の様子と介護計画の実施状況を記載し、2枚の写真添えて郵送され、家族からは介護計画の実践状況が良く解ると好評です。また、利用者の高齢化や重度化の中ですが、利用者それぞれが役割を持ち力を活かした食事作りを大切に、おいしい食事を作っておられます。エレベーターを挟んで二つのユニットを利用者は行き来して、入居以前からの交流を継続されている方もいます。今はカレンダー作りですが、制作活動をする時もユニットを超えて一緒に作業をされるなど、利用者の意向や思いを尊重し、生活の主役となって頂く理念に沿った支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人や事業所の理念・目標を掲げ、その理念や目標が達成出来るよう取り組んでいる。事務所やトイレには掲示している。	法人の理念の「『長生きして良かった』と心から喜んでいただける日が一日も多くありますように」をふまえて、グループホームの理念を「入居者様の価値観や思いを尊重して、生活の主役となって頂く」と掲げ、毎年検討している。グループホームに入居しても、地域と関係を途切れさせず行き来して生活をしたいとの希望が多く、コロナ禍の中で地域との関係を途切れさせない支援の在り方を課題としている。理念はホームページやパンフレット、広報誌に掲載すると共に、玄関や職員の目につきやすい所にも掲示し浸透できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の桂川小学校と交流をしているが、新型コロナウイルス感染症流行に伴い行えず。小学生が作成した作品を一階で展示している。	入居者の地域と繋がりがりながら暮らしたいとの思いに沿って、買い物や小学生との交流などやコミュニティホールを地域子育てサークルなどへ開放をしていたが、コロナ禍で「地域に認知症理解をしてもらう取り組みが出来ていない」と模索されている。地域自治会はコミュニティホールを現在も活用されている。		地域に向けた掲示板やブログを活用して、入居者のレクリエーションでの様子や、認知症理解につながる職員からのメッセージを発信されては如何でしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、感謝祭を実施し、その中で介護相談を受け付けているが、2年連続中止となり、地域の方に対して、認知症を理解して頂けるような取り組みは出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していたが、新型コロナウイルス感染症流行し、2年開催が出来ず、書面での報告のみで、直接意見交換は出来ていない。	運営推進会議のメンバーは利用者・家族、社会福祉協議会会長、東上桂自治会長、京都市西京・南部地域包括支援センター職員で開催していたが、コロナ禍で、2年間は開催できずに書面での報告のみになっている。併設有料老人ホームの管理者が、各メンバーや家族に事前に意見を聞いているが、あまり意見は出されていない。聞きとった意見は議事録として纏めて家族全員とメンバーに送付している。		運営推進会議の議事録に、メンバーからの意見があまり出されていません。意見をもらう工夫として、先に資料を送付して、意見を記入してもらう用紙を同封しては如何でしょうか。また、出された意見で検討課題としたことは、次回に報告されることをお勧めする。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や事故報告等があれば、直接出向き報告や相談を行っている。	運営推進会議の議事録や相談事項、事故報告などは行政の担当課に持って行き、窓口の担当者とは、何でも話し合える関係になっているが、コロナ禍で「西京区サービス事業所連絡会」は中止になっている。		

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化マニュアルをもとに、研修を年2回実施。定期的に身体拘束をしていないか等振り返りを行い、ケアの改善に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は管理者、看護師、介護職リーダーがメンバーで年4回開催し、職員会議で報告をしている。高齢者虐待防止・身体拘束適正化研修は年2回実施し、受講後は感想を書いている。欠席の職員や派遣職員には資料を渡し感想を聞いたものを管理者が纏めて、回覧し捺印をもらっている。玄関は防犯の関係で施錠している。職員の不適切な言動には、「どのようにすれば不適切な言動に繋がらないのか」を考えられるように注意し、職員会議でも話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についても、マニュアル研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、何かあればすぐに指導を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所びにおいて、権利擁護や成年後見人制度についての研修を実施。過去、ご家族から相談を受け、アドバイスをを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書、入居契約書、入居の手引きを渡し、納得した状態で入居して頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付ポスターを掲示しているが、ここ最近では、ご家族に直接居室まで上がってきて頂く事が出来ない為、電話やアンケート等で要望・意見がないか確認をしている。また、何かあれば担当職員と解決出来るよう取り組んでいる。	家族からは電話やアンケートなどで要望や意見を聞いている。アンケートは家族と利用者別々にとり、集計・検討し、家族に電話で報告している。また、名前の分かる方には直接答えている。家族からは面会の希望が多く、窓越し面会やLINE電話での面会をおこなっている。そして、電話や報告を今迄より頻回にすると共に、毎月家族にはケース担当者が「日常の様子とケアプランの実施状況や写真」を送付して喜ばれている。加えて、年4回発行している広報誌に、写真を多く載せるなどで、利用者の様子を知りたい家族の思いに応えられるようにしている。	

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員と意見交換や提案が出来る機会を設けている。また、管理者は月1回行われる事業所長会議に参加し、運営状況等を報告し、意見交換出来る機会がある。	職員からは職員会議や日常業務の中で、そして、3ヶ月毎に「目標管理シート」に沿っての面談や随時希望者との面談で、意見や意向を聞く機会は多く持っている。また、情報交換ノートで運営のことや利用者のことなど、職員が気づいたことを記入し職員で共有している。職員からの意見は利用者の支援についてや、利用者が高齢化や重度化になられている中で食事を手作りにしていること等などの意見が出ている。また、「1日の作業内容のマニュアルを流れも含めて作成する」ことで、派遣職員が指示なしで動け、業務がスムーズに出来ることを目指して作成を進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課表により、事業所の目標に基づいて個人目標や評価等を管理する事で、給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内やグループホーム合同で課題別研修を行い、職員を育てる取り組みが行われている。また、法人が主催している研修もあり、希望者は外部研修にも積極的に参加して頂けるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム合同で年3回合同研修を行い、意見交換出来る場を設けているが、感染症対策の為、合同研修の機会が減ってきている。今後は、リモート等を活用し、職員同士が交流出来る場を確保したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、ご本人やご家族に希望・意向を確認し、必要な支援を把握する事で、日々のサービスが提供出来るよう心掛けている。また、日頃から信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居相談時、契約時に意向や要望を確認し、安心して入居して頂けるよう取り組んでいる。		

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りをしっかりと行い、必要とされている支援が提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で生活して頂き、日頃からコミュニケーションを図り、穏やかに、笑顔が多く出るような生活を送って頂けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、近況報告を行っていたが、現在はあまり出来ない為、電話連絡や月1回の写真付きの手紙を送る事で、ご様子をお伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、知人や親戚等が訪ねて来ていたが、面会自粛の期間が長くなっており、お手紙等の交流が続いている。今後も関係が継続出来るよう支援していきたい。	入居が決まった時に利用者・家族に入居時シートとして基本情報を書いてもらい、入居時に利用者・家族から、生活歴や生活情報を聞き取り、入居面接シートに馴染みの人々も記入している。また、利用者との日常の会話の中で、馴染みの関係の把握に努めている。コロナ禍までは、知人や親せきなどが訪ねて来られたり、月1回程度外出や外泊をされて交流されていた方もあった。今は窓越し面会や電話、手紙などでの交流が続いている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の人間関係を踏まえて座席を考えた時、お話が出来ない方には、職員が関わりを持ち対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、年賀状や近況を報告して下さるご家族もおられ、必要に応じては、介護相談にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご家族様から生活歴等を確認し、職員間で情報を共有している。また、日々のコミュニケーションの中で、ご本人の意向や思いを聞き取り、支援出来るよう心掛けている。	入居時に利用者・家族に生活歴や意向、希望を確認すると共に、日々の利用者とのコミュニケーションの中で意向や思いを聞き取り、ケース記録や情報交換ノートに記入し意向に沿った支援が出来るように努めている。意思表示が困難な利用者の方は表情を読み取り、以前のその方のことを思い出し、家族にも伺い、本人本位に検討をしている。利用者の美味しいものを食べたい意向には利用者の食べたい物を献立に反映させるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集シートを活用し、ご家族の協力を得ながら情報を共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かあればケース記録に残し、職員間で情報を共有している。また、会議や情報交換ノートを活用し、入居者様の状態も把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議前に、ご本人やご家族に意向を聞き取りし、なるべく希望に沿ったケアプラン原案を作成している。現在は、会議に参加して頂く事が出来ない為、電話開催とし、再度意向の確認を行い、同意が得られれば、署名を頂き、交付している。	日々のケース記録でモニタリングをおこない、それをもとに担当職員とケアマネジャーが3ヶ月毎に家族の意向や医療情報も加味し、モニタリングをおこないカンファレンスで話し合っている。利用者に変化がなければ1年ごとに介護計画を見直し、必要時は随時見直している。情報収集シートで再アセスメントをおこない、課題分析をして介護計画の案を作成し、家族に意向を聞いた上で主治医の意見書をもらい、サービス担当者会議を開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を出来るだけ詳しく記入するよう指導を行い、職員間での情報交換ノートを活用し、細かく伝達している。			

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から希望があれば、マッサージやリハビリ等が利用出来るよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物や散歩を通じて、地域と関りが持っているよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を継続するのか確認を行い、選択して頂いている。かかりつけ医の往診は、月2～4回あり、緊急時は臨時往診も依頼出来る。また、双方の同意が得られれば看取りも可能。病院とは、24時間連絡が取れるよう協力体制が構築出来ている。	入居時にかかりつけ医の説明をして、ほとんどの方が主治医を協力医療機関に変更されている。眼科、整形外科、心療内科など定期受診される方は家族の付き添いで受診されるが、コロナ禍であるためできるだけ受診回数を減らし、処方日数を増やしてもらうように依頼している。訪問診療は月2回～4回の訪問で24時間連絡が取れ、緊急時も臨時往診をしてもらっている。薬剤師も処方のある日には来所して薬の管理をもらっている。歯科受診の必要な方は月1回の訪問診療があり、歯科衛生士の口腔ケア指導も受けている。訪問看護師は週1回きてもらい24時間オンコールである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務している。何かあれば報告を行い、適切なアドバイスや看護を下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ご家族と病院との間に入り、報連相等の連携を行っている。		

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する聞き取りや主治医と事業所が出来る事を説明し、同意書を交わしている。しかし、実際の看取り期になるとご家族の意向が変化する場合がある為、再度会議を開催し、同意書を交わし、悔いのないよう出来るだけ希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。	法人で統一した看取りに関する指針を作成され、入居時に利用者及び家族に意向を聞き取っている。また、本人の状態が変わられ、医師が見取りと判断した時は、医師、家族と共に話し合い、同意書を交わしている。職員にはその時に研修を行う予定である。居室が広いので家族のベッドも用意でき、最後の時間をともに過ごしてもらえるようにしている。看取りといわれて退院し、施設で良いケアを受けられて元気に生活している方もおられる。事例は過去にはあるがこの数年はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、事故発生時の対応については、定期的に確認を行っている。また、年に1回の救急講習への参加も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している事業所と年2回消防署にも協力して頂き、消防訓練を行っている。また、備蓄に関しては、2階の倉庫で管理しており、担当者が期限や個数等確認をしている。	年2回の消防訓練は併設事業所と合同で消防署立会いのもと避難誘導、消火器の扱い方を学んでいる。訓練には利用者も参加している。また、自然災害対策として地震や水害の訓練をおこなっている。近隣住民に避難訓練の声がけはしていないが、運営推進会議で「有事の際は近所の方や家族もこちらに避難可能」と伝えている。実際過去には水害時に受け入れ、リビングにベッドを入れたり布団を敷いて対応した。備蓄は防火担当者が管理をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や思いを尊重し、プライバシーが損なわれないよう声掛けし、関りを意識しながら日々支援を行っている。	一人ひとり違う環境の中で生きてこられ、生活リズムも違うため、聞き取りをしながら思いをくみ取り、その方にあった言葉かけや対応をしている。職員は倫理や権利擁護の研修を受け、トイレや居室の扉は開けっ放しにならないよう注意し、おむつ交換後は新聞紙にくるみ他者の目に触れないように処理をしている。居室の入り口には暖簾をかけ、書類や薬袋など記名されているものはシュレッダーにかけている。会議は利用者に聞こえないように事務所でこなしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関りやコミュニケーションの中から、ご本人の希望に沿った生活をして頂けるよう支援している。		

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や思いを確認し、個々に合った暮らしが出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回は訪問美容院に来て頂き、散髪や毛染めを希望に応じ行っている。現在は、外出が出来ないが、出来るようになれば、洋服や化粧品を一緒に買いに行き、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援して行きたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ食事は手作りを心掛け、献立作成時も意見を取り入れながら立てている。出来る方には、調理・盛り付けを職員と一緒にを行い、自分の役割と思っておられる入居者様もおられる。	食事は手作りが主だが、利用者の状況でクックデリを使用する時もある。食材はチラシを見て宅配に発注し、届いたら利用者に日づけを記載し冷蔵庫に入れてもらっている。調理は野菜を切り、炒め、盛り付け、食器洗い、などを利用者は自分の役割と思っている。誕生日には好きなものを聞き取り作ったり、出前をとることもある。誕生日ケーキはスポンジを買ってきてデコレーションを楽しんでもらっている。おやつはホットケーキやようかん、ゼリーをつくっている。また、茶碗・湯飲み・箸は馴染みの物を持ち込み使用してもらっている。食事の時は食事に集中できるようにテレビを消して音楽をかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を把握したい方には、チェック表を作成し、細かく確認を行い、必要な栄養摂取が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けし口腔ケアを実施。月1回歯科往診があり、口腔内の状態を確認して頂き、必要時は、治療や指導を行って下さっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を掴み、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。また、個々に合った排泄物品を選択し、肌トラブル等の軽減も考え取り組んでいる。	介助の必要な方は排泄表をつけて、トイレ誘導をしている。自立の方は必要性があれば排尿・排便の回数・水分量を記録している。夜間も2時間おきに紙おむつを交換し、歩ける方は声がけて、トイレに誘導している。リハビリパンツやパッドなどの排泄物品は一律でなく、カンファレンスで話し合ってその方にあったものを選択している。	

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく野菜や食物繊維の多い物を提供している。また、個人でヤクルトやヨーグルト等を購入しておられる方もあられ、体操や身体を動かすようなレクリエーションも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴して頂いており、入浴予定曜日や時間は定めず、入浴して頂いている。なかには入浴に対して、拒否がある方もおられるが時間を空けたり、介助者や日を変更して対応している。	個浴で一人ひとり湯を替えている。浴槽は手前の部分が可動式で低く設定され、利用者がまたいで入りやすくしている。それぞれの身体状況によって浴槽にはつからずシャワー浴の方、週2回のうち1回は清拭にしている方もいる。足浴もおこなっている。季節行事としてしょうぶ湯やゆず湯を楽しまれている。そして、個人で希望される方は入浴剤を使用されている。また同性介助も希望があれば対応している。入浴拒否の方は工夫をして入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、ご本人のタイミングで就寝されている。寝具はリースだが、こだわりのある方に関しては、今まで使用してこられた物を持参して頂き使用されている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師に依頼し、薬の管理を行って頂いている。その為、薬の変更等があっても迅速に対応して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や趣味等、これまでの生活の中で馴染んで行ってこられた事は、入居後も継続して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者は、毎日散歩に出掛けたり、ご家族の協力を得ながら外出や外泊を行ってきた。2年程は外泊等出来ない状態が続いているが、ライン電話等を活用しながら、ご家族等と顔を見ながら話が出来るよう支援している。	コロナ禍で以前のように出かけることはできていないが、日々の散歩はマンツーマンで継続している。またベランダに出たり、隣のユニットに親しい方を訪ねて遊びに行っている方もいる。車窓ドライブで桜の花見には出かけることができた。	

京都府 グループホーム上桂(桜ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方には、1万円程度の現金を管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおられるが、希望があれば、電話を繋ぎ、ご家族等と話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、季節を感じて頂けるような飾りつけを工夫している。また、食事の席だけでなく、入居者様が集まって話が出来るような配置でソファを置いており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ユニットの玄関前には花が飾られ、熱帯魚を飼育している。ユニットの「桜」という名前にふさわしく年中桜の装飾があり床も一部分桜色になっておりフロア全体が明るい印象を受ける。壁には桜のタペストリーを飾り、開所時に職員と利用者で制作したカレンダーを大切に活用している。換気は定時でおこない、空気清浄機を2台置き、天井エアコンには風よけがつけられ、直接風が当たらないよう配慮されている。キッチンを利用者が入って作業が出来るゆったりとした広さがある。テレビをかこんで設置されたソファで職員と入居者がチラシを手に表情豊かにおしゃべりをされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士で席を用意したり、関係性や相性を考えながら居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけ今まで使用されていた物を持参して頂いており、環境が変わっても、ご本人が安心して居心地よく過ごせるよう工夫し、生活して頂いている。	居室は広く、トイレと洗面台が設置されている。和室の居室も2部屋あるが今はベッドを置かれ生活されている。居室には表札がつけられてそれぞれ好みの暖簾をかけ、目印にもなっている。馴染みの整理ダンスやラック、仏壇、位牌を置いて安心して過ごせるようにしている。テレビやドライヤーなどの電化製品も持ち込み可能で使われている方もいる。夜間居室にお茶を希望される方には対応して安心して過ごしてもらっている。可能な方は週1回のリネン交換の時に職員と共に居室の掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、残存機能が活かせるような関りや工夫を行っている。また、転倒せず安心して歩行して頂けるよう家具の配置等も工夫し、支援している。		